

# 移住希望者から選ばれる富山県に

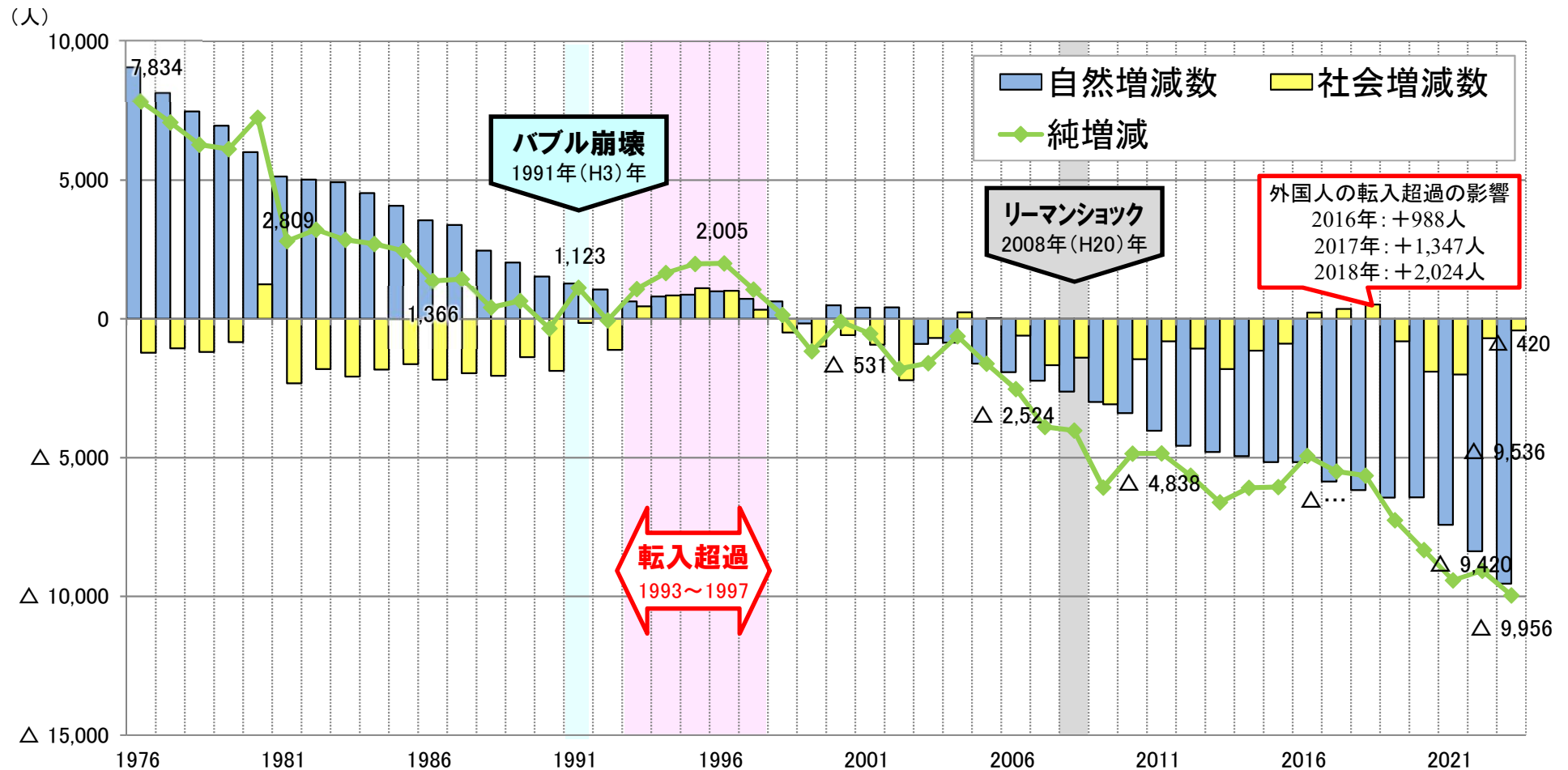
令和6年7月26日  
地方創生局

# 目 次

1. 本県 of 社会動態・移住者数の状況
2. 移住促進のための取組み
3. 現在の課題と対応の方向性

# 本県の社会動態・移住者数の状況①

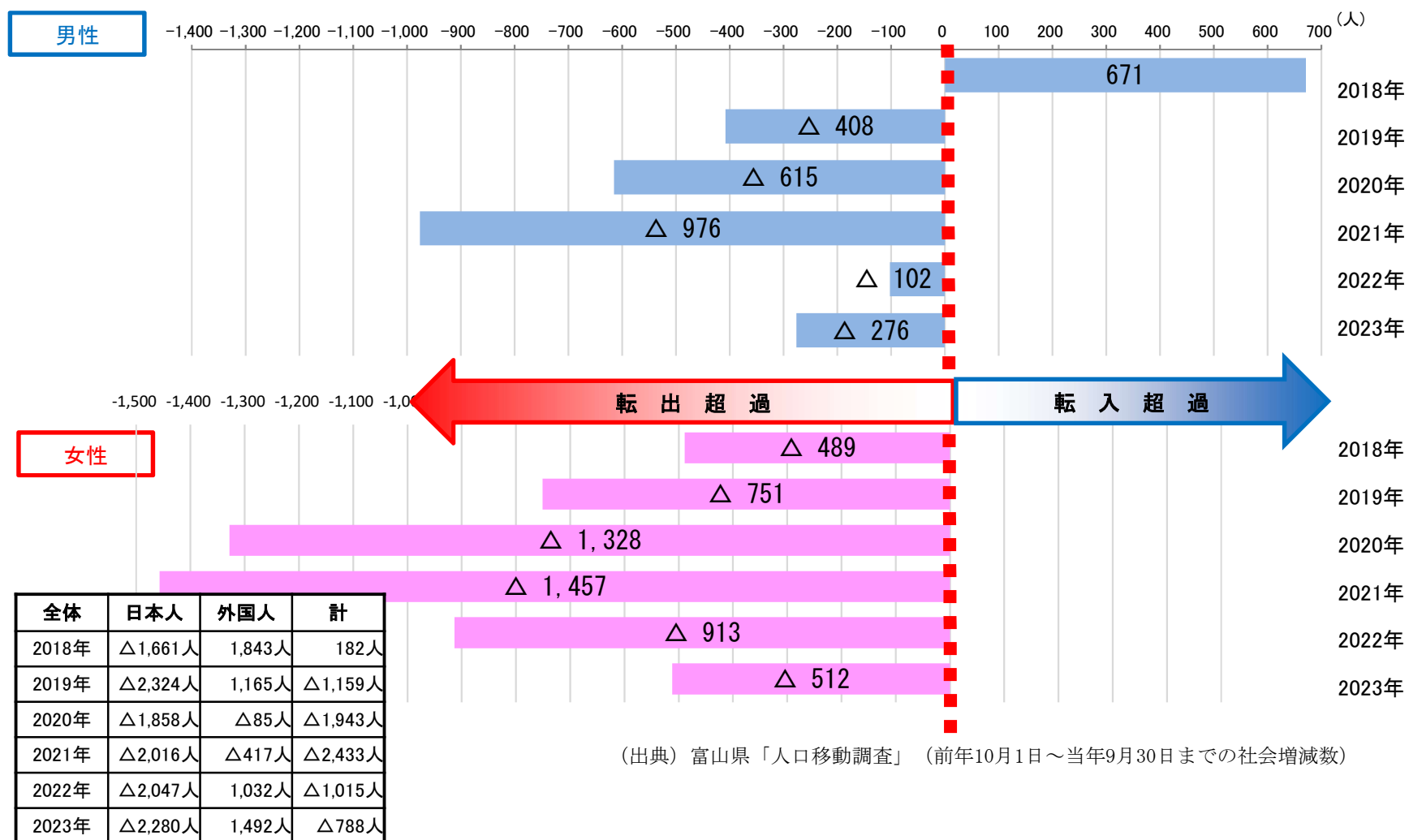
- 自然動態(出生－死亡)は、マイナス幅が増加傾向。
- 社会動態(転入－転出)は、外国人の移動増加などにより、マイナス幅が縮減するも、2019(R元)年以降は マイナスが続いている状況。



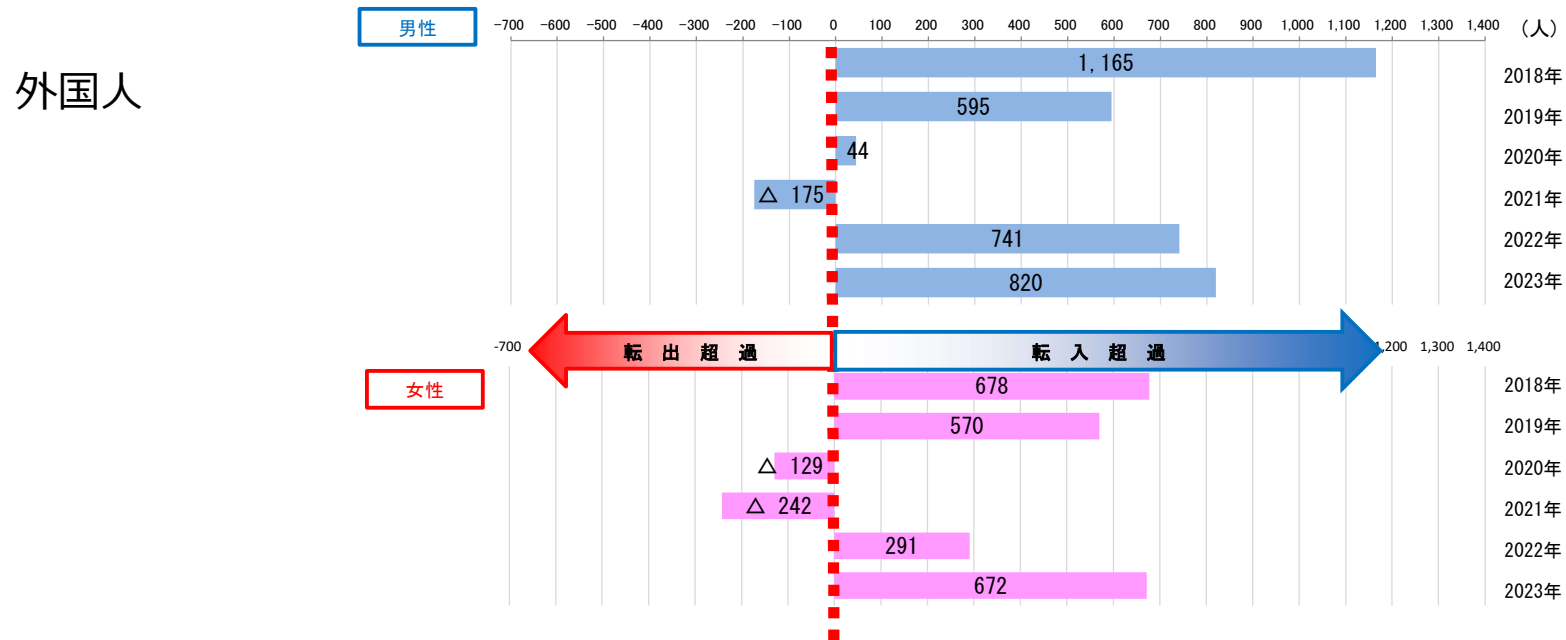
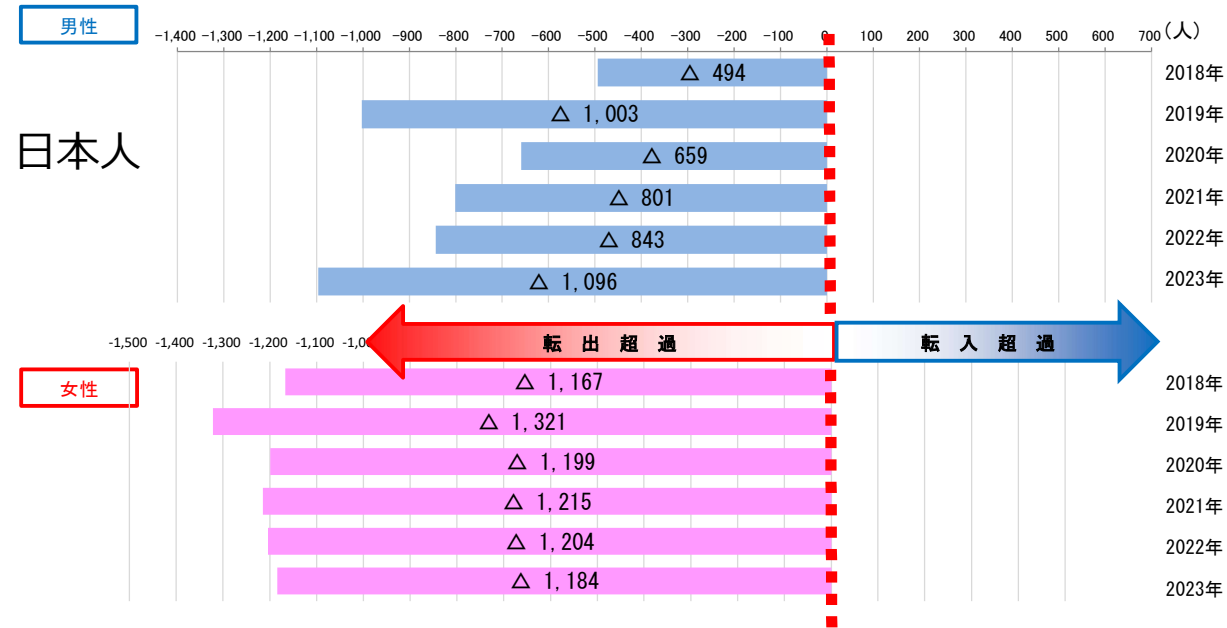
(出典) 富山県「人口移動調査」(前年10月1日～当年9月30日)

## 本県の社会動態・移住者数の状況②

- 富山県の15歳～34歳の社会移動の状況を見ると、2023年は788人の転出超過。
- ここ数年は、増減はしているものの、男性・女性ともに転出超過が継続。



# 本県の社会動態・移住者数の状況③



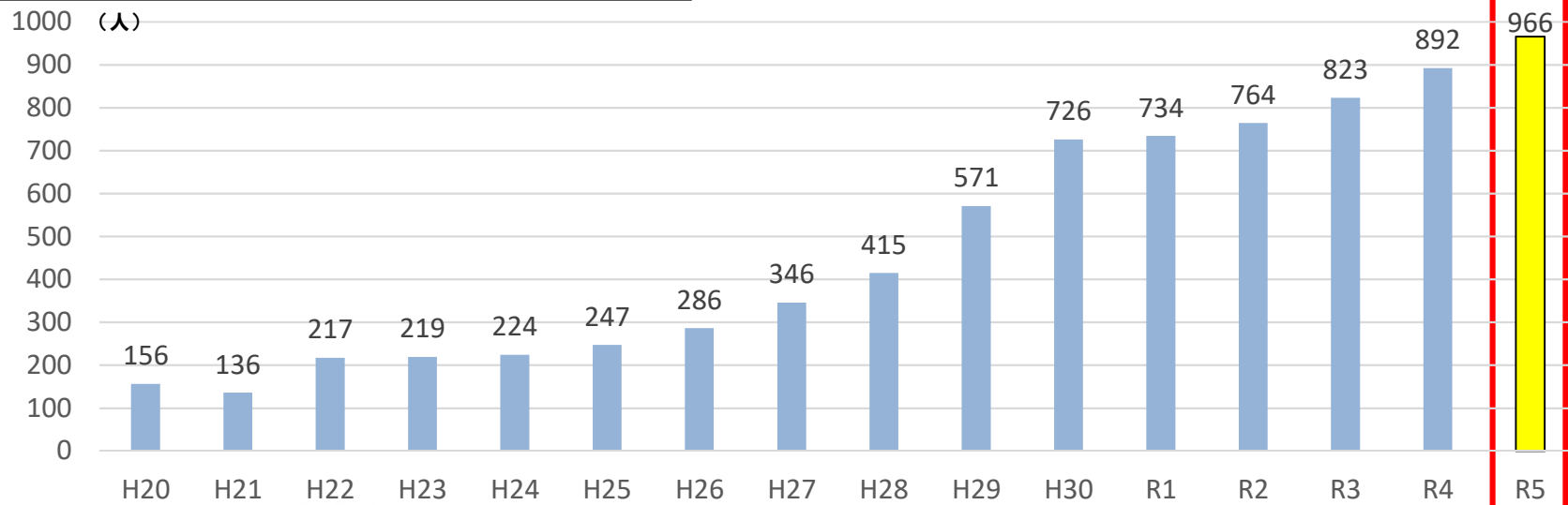
(出典) 富山県「人口移動調査」(前年10月1日～当年9月30日までの社会増減数)

(出典) 富山県「人口移動調査」(前年10月1日～当年9月30日までの社会増減数)

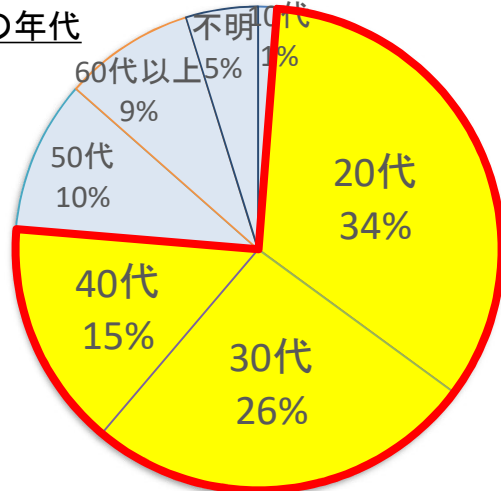
## 本県の社会動態・移住者数の状況④

- 県外からの移住者数は年々増加しており、R5年度は過去最高の966名。
- 世帯主の年代では、20～40代が439世帯で全体の75.0%。
- 移住前居住地では、東京都など首都圏からの移住者が多い。

### ○ 県・市町村の相談窓口等を通じた移住者数の推移



### ○ 世帯主の年代



### ○ 移住前居住地

首都圏  
(東京, 神奈川, 千葉, 埼玉)  
430人(44.5%)

大阪圏  
(大阪, 京都, 兵庫)  
90人(9.3%)

名古屋圏  
(愛知, 三重, 岐阜)  
96人(9.9%)

移住前居住地	移住者数(人)
東京都	253(26.2%)
石川県	153(15.8%)
神奈川県	80(8.3%)
愛知県	74(7.7%)
埼玉県	56(5.8%)

## 本県の社会動態・移住者数の状況⑤

- 県外からの移住者が1,000人近くにまで増加していることは、令和5(2023)年の富山県の社会増減▲420人と比較して、相当な規模感まで増加している。
- また、移住世帯の世帯主の4分の3が20代～40代となっており、新たに移住してくる者が増加することによって、富山県の若年世代の転出超過数も相当程度減少させ得る。
- 移住者数の増加は、労働力確保や消費者の増加などの経済面にとどまらず、県民にとって、富山で暮らす魅力を再認識するきっかけや、地域に新たな活力をもたらすチャンスにつながる。
  - ・ 立山町に移住、里山マウンテンバイクツーリズムを実施している方
  - ・ 魚津市に移住、「フリーランスママ」の団体を立ち上げた方
  - ・ 射水市に移住、地域の若者を巻き込み、地域課題の解決に取り組む方

# 移住促進のための取組み①

- 「移住に関心をもってもらう」、「主体的に行動してもらう」、「永く住み続けてもらう」といった移住に対する検討段階に応じて、各種の施策を実施。
- R6年度は、オンラインセミナーや移住フェアの回数を増加させ、情報発信を強化。

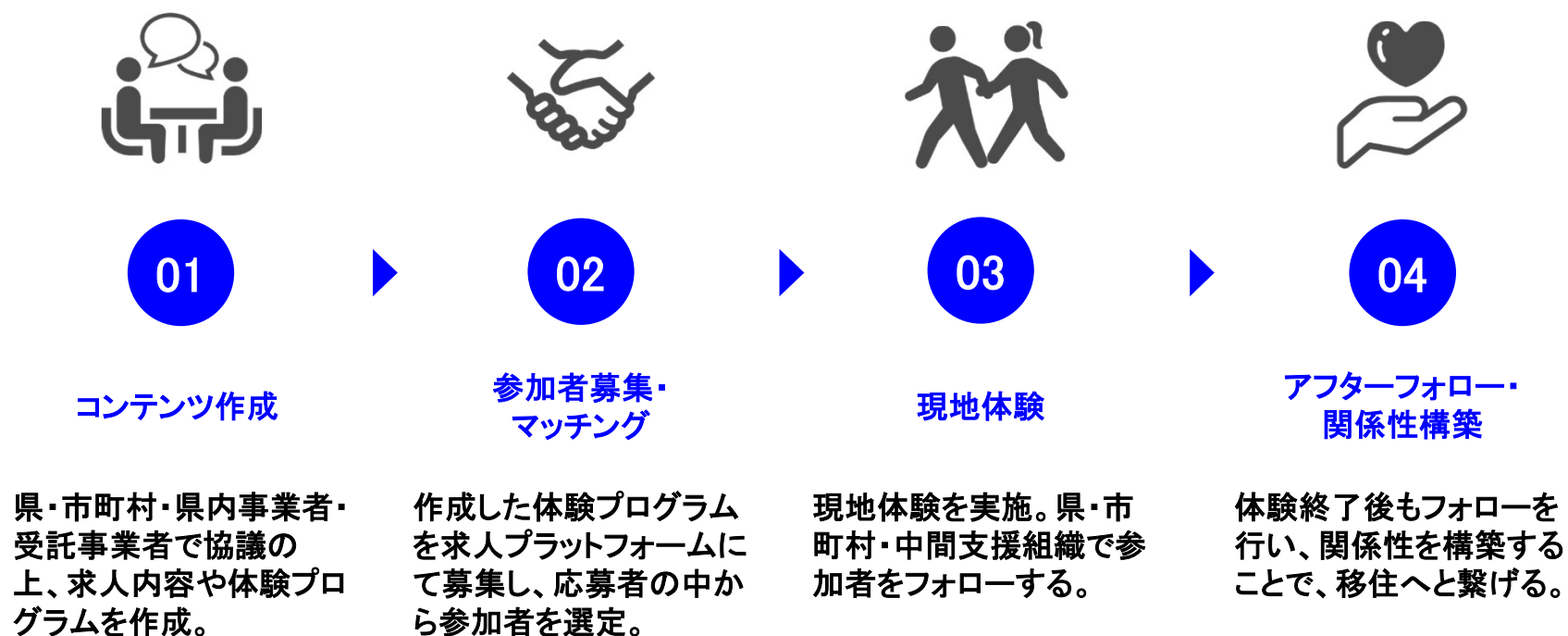
<b>Step3</b> 永く住み 続けて もらう	<p>○移住者受入モデル地域＜6市町9地域＞</p> <p>①高岡市金屋町 ②南砺市城端 ③南砺市利賀          ④朝日町笹川 ⑤氷見市速川 ⑥魚津市片貝          ⑦射水市内川 ⑧氷見市論田・熊無 ⑨氷見市久貝</p> <p>○富山県創業支援センター/創業・移住促進住宅の整備          (2022.10.28グランドオープン)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住者受入モデル地域への支援</li> <li>・空き家改修への支援</li> <li>・移住者交流会の開催</li> <li>・とやま移住応援団</li> <li>・移住ミスマッチ防止のための研修会</li> </ul> <p>市町村職員等対象の受入れの際の留意点等について学ぶ研修会</p>  <div data-bbox="728 742 2027 845"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住支援金交付事業 ・単身60万円、世帯100万円交付(18歳未満1人につき100万円加算)</li> <li>・とやまUIターン起業支援事業 ・起業支援金 200万円交付</li> </ul> </div>
<b>Step2</b> 主体的に 行動し てもらう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>拡)とやま移住魅力体験助成</b>            移住検討者が現地訪問(住まい探し等)する際の            交通費・宿泊費助成            (R6から子育て世帯の高速道路・レンタカー利用も対象)</li> </ul>	 
<b>Step1</b> 移住に 関心を もって もらう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口・イベント会場でのVRの活用            イベント会場や相談窓口でVRを活用し富山の魅力を紹介</li> <li>・新)移住相談者情報管理システム導入事業            相談者の情報を記録・分析する管理システムの導入</li> <li>・拡)全部伝えます！とやま移住セミナーの開催(年15回)            テーマやターゲットを絞ったセミナーを開催し、地域ニーズに対応した人材獲得を推進</li> <li>・みんな納得！ベストマッチ相談会の開催(年3回)            移住検討者が市町村・先輩移住者等に相談し、富山を知ってもらい相談会を開催</li> <li>・オンライン移住相談事業            WEB会議アプリ(zoom)を使用したオンライン相談体制の整備</li> <li>・移住関連情報の発信            「くらしたい国、富山」HP、メルマガ、移住動画、SNSによる情報発信</li> </ul>	



## 移住促進のための取組み②

- これから本格的に移住を検討する方や、働く場所を探している方を対象に、富山県で「働きながら暮らす」体験を提供する「とやまマッチングツアー(仮)」を実施。
- 参加者は、仕事をしながら、空いた時間を地域交流や観光などに使うことで、富山県の魅力を多面的に体験することが可能。

### ○ フロー図



## 現在の課題と対応の方向性

- 移住者を増加していくためには、移住希望者から選ばれる富山県にしていける必要。  
移住希望者のニーズを丁寧に拾い上げ、富山県の魅力と十分にマッチングさせることで、移住者の増加につなげていく。
- そのため、移住希望者に対する情報発信体制の強化とともに、各部局との連携を更に強化していくことが重要。

### 課題

### 対応の方向性

移住に関心を持たれた方の第一歩として、  
相談窓口の認知度が低い

「富山暮らしの魅力」を相談窓口と  
一体で発信する必要

移住者目線での「富山暮らしの魅力」を発信  
できていない

「富山暮らしの魅力」を県外出身  
者目線で発掘し発信する必要

移住希望者が現地を訪問しても、暮らしまで  
体験することができない

移住希望者のニーズに合わせた  
体験を用意する必要

担い手を確保するための施策を移住希望者  
が知る機会が少ない

他部局と連携し、移住希望者に発  
信する必要